

散水方法の違いによるほだ木の水分吸収（Ⅱ）

1 研究のねらい

乾しいたけ生産に散水は必要であり、研究成果速報No.177では24時間実施した場合は、ミスト方式やシャワー方式がほだ木の水分吸収が効果的との結果を報告した。今回は、未植菌の原木及び植菌後2～6年目のほだ木での、散水方式の違いによる水分吸収状態について報告する。

2 調査結果

表のとおり3方式で、散水調査を行った。ほだ木1本当りの24時間使用水量はスプリンクラー方式が最も多く、シャワー方式が最も少なかった。散水方式の違いによる原木及び植菌後2～6年目のほだ木での含水率上昇は（図-1, 2, 3）、各方式とも原木が最も低く6年目ほだ木が最も高くなっていた。

24時間での含水率増加割合は、未植菌の原木の場合で3方式とも1.3～1.9%であった。同様に、植菌後2年目ではミスト方式が3.7

%、4年目シャワー方式3.9%、5年目ミスト方式6.1%、6年目シャワー方式8.8%と最大の含水率増加割合となった（図-1, 2, 3）。

一方、スプリンクラー方式は2・3年目とも1.8%、4年目4.0%、5年目2.2%、6年目4.3%と含水率上昇はシャワーやミストと比較して遅くなっていた。

植菌後6年目のほだ木1本当りの24時間での吸水効率（吸水量/散水量）は、シャワー方式0.98%、ミスト方式0.51%、スプリンクラー方式0.13%となり、含水率の上昇はシャワー方式が早かった。

水の便の良いほだ場では設置の容易なスプリンクラー方式が、効率良く散水するためにはシャワー方式が効果的であると考えられた。

表—散水方式及び植菌6年目の24時間含水率変化

散水方式	使用水量 (ℓ)	散水前	24時間後
シャワー	57.6	38.2%	47.0%
ミスト	96.0	38.2%	44.8%
スプリンクラー	220.8	38.2%	42.5%

注) ほだ木1本当り使用水量

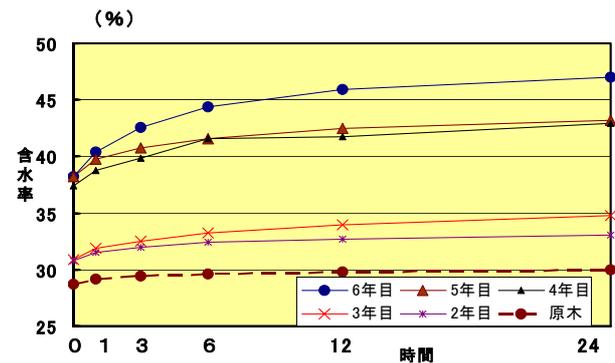


図-1 シャワー方式による含水率変化

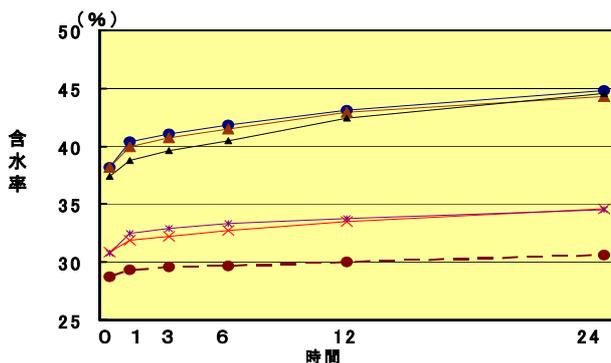


図-2 ミスト方式による含水率変化

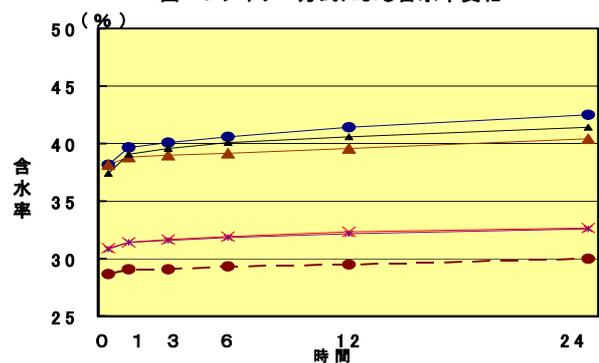


図-3 スプリンクラー方式による含水率変化

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560 番地 11 TEL019(697)1536

岩手県林業技術センター

FAX019(697)1410

ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>